

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第13週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第13週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第13週（令和4年3月28日から令和4年4月3日まで）

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん・流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.22人と前週（2.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.22人と前週（0.19人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.22人と前週（0.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～報告数が再び増加～”について取り上げました。

川崎市における令和4年第13週（3月28日～4月3日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は、6687件と7週間ぶりに増加に転じ、リバウンドの兆候がみられています。

また、直近3週間（3月14日～4月3日）の新規感染者のうち、20歳代までの割合は49.2%と約半数を占めており、若年層の増加が全体の報告数の増加に影響していると思われます。一方、60歳以上の方の割合は6.0%と非常に少なく、高齢者における新型コロナワクチンの高い追加接種率（89.04%）を反映していると考えられます。

感染の再拡大を防止するためには、日々の予防対策の徹底に加え、追加接種が重要となります。接種可能な方は早めの接種を御検討ください。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

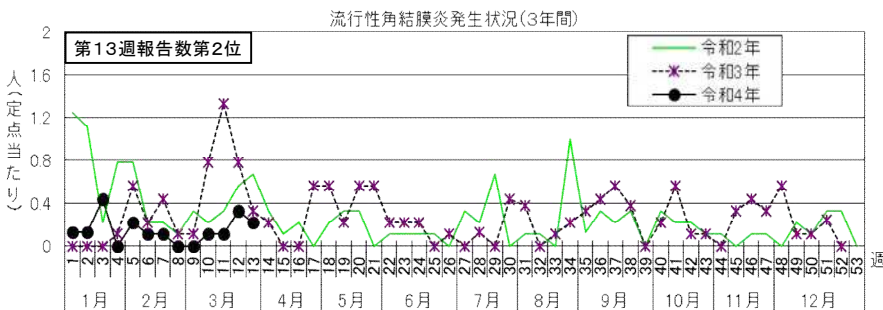
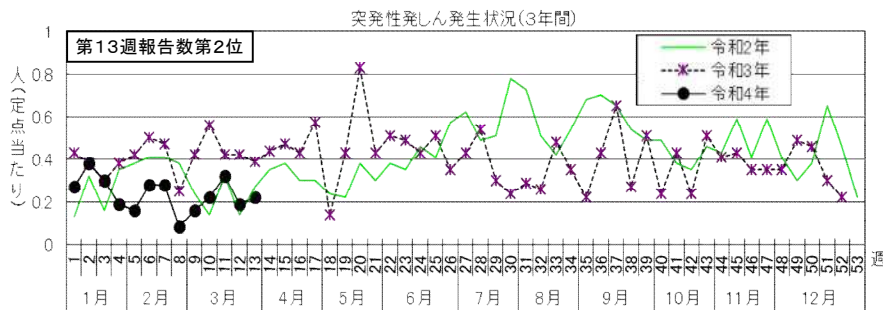
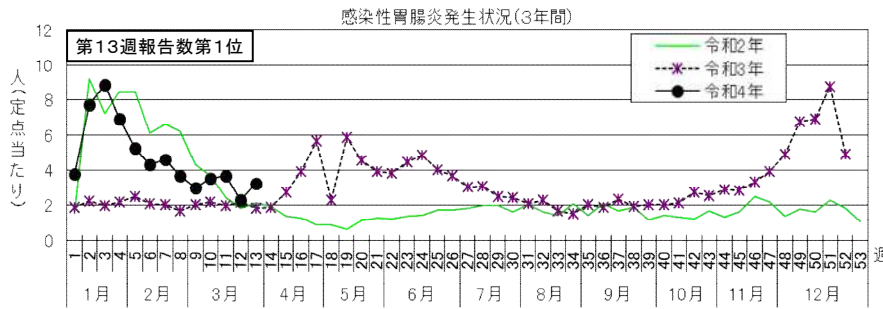
【感染症発生動向調査事業から】

令和4年3月28日（月）～令和4年4月3日（日）〔令和4年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん・流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.22人と前週（2.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.22人と前週（0.19人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.22人と前週（0.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



STOP



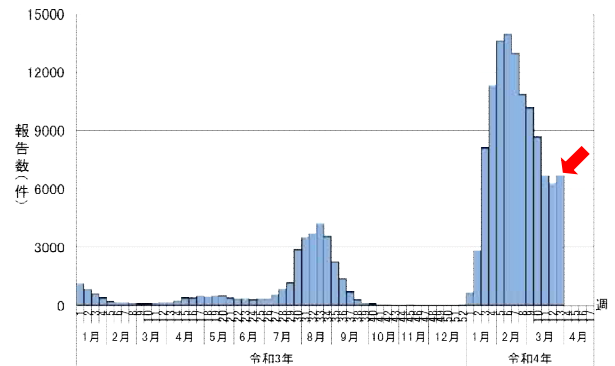
新型コロナウイルス感染症～報告数が再び増加～

川崎市における令和4年第13週（3月28日～4月3日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は、6687件と7週間ぶりに増加に転じ、リバウンドの兆候がみられています。

また、直近3週間（3月14日～4月3日）の新規感染者のうち、20歳代までの割合は49.2%と約半数を占めており、若年層の増加が全体の報告数の増加に影響していると思われます。一方、60歳以上の方の割合は6.0%と非常に少なく、高齢者における新型コロナワクチンの高い追加接種率（89.04%）を反映していると考えられます。

感染の再拡大を防止するためには、日々の予防対策の徹底に加え、追加接種が重要となります。接種可能な方は早めの接種を御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症 診断週別発生状況-令和3年第1週～令和4年第13週-



川崎市における新型コロナウイルス感染症 年齢階級別発生状況(令和4年第11週～第13週)

